

## 平成 23 年 12 月度県内産業景気動向調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

### 山口県の主要指標 DI 値（平成 23 年 12 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（＜好転＞－＜悪化＞＝＜DI 値＞）

前年同月比は、好転：2.5% 悪化：56.3% DI 値：▲53.8% ポイント

売上高（＜増加＞－＜減少＞＝＜DI 値＞）

前年同月比は、増加：17.5% 減少：43.8% DI 値：▲26.3% ポイント

収益状況（＜好転＞－＜悪化＞＝＜DI 値＞）

前年同月比は、好転：7.5% 悪化：46.3% DI 値：▲38.8% ポイント

### 山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 23 年 12 月末現在）

 30 以上	 10～30 未満	 10 未満～▲10	 ▲10 超～ ▲30 未満	 ▲30 以上
--	---	--	---	---

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲66.7	▲100.0	▲33.3	▲100.0	▲66.7	▲60.0	▲100.0	▲69.7
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス 業	建設業	運輸業	全 非 製造業	全 体
▲40.0	▲55.6	▲100.0	▲23.1	▲33.3	▲42.9	▲42.5	▲53.8
							

## 特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	1 1 月度は前年同月比 + 5 % と順調。1 2 月度も速報値で前年同月比 + 7 % 程度と好調。特に年末が天候・海況ともに恵まれ、主力商材の鮮魚水揚げが順調であったことが最大の要因。	水産食料品製造業 萩市
	年末のギフトシーズンは例年に比べ厳しかった。やはり余分な消費を控えるという傾向があったのではないか。しばらくはこの傾向は続くと思われるので、新しい商品提案を考えないといけない。	水産食料品製造業 下関市
繊維工業	1 1 月の報告と特に変化は無く、厳しい状況は続いており、生産工場の増産は見込めない現状。メーカー（納品先）の販売状況も、見込みより 20 % ダウンの水準で推移し苦戦している。2 月～3 月にかけて、在庫増のためメーカーの生産調整が予想され、組合員各社決算対策に頭を痛めそうである。	下着類製造業
	1 1 月と同じく円高の影響が続いている。	外衣・シャツ製造業
木材・木製品	県内の新規住宅着工数は依然として少ないが、リフォーム等の需要が若干出ている。	製材業・木製品製造業
印刷	材料費の値上げがあったが、受注価格へ転嫁できない。電子化と景気の停滞により、紙を媒体とした販売促進ツールや出版物等の印刷需要が少ない状況で、業者間の競争が激化し、受注価格が下落している。	印刷
	下半期より受注の減少で、繁忙期の売上をあっという間に食い尽くしてしまい、厳しい決算を迎える。平成 24 年も好転の兆しが見えず 1 月、2 月は更に厳しい状況が続くだろう。	
窯業・土石製品	当初見込みは上回りつつ推移するものの前年比 97 パーセント。地区ごとの出荷状況は 6 地区中、3 地区のみが前年実績を上回っているものの、まだら模様の状況。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。	生コンクリート製造業
	山口国体が終わり国体関連工事が終了、また、防府地区の豪雨災害復旧工事も終了したため、売上高・収益状況が悪化し業界の景況は悪化している。	コンクリート製品製造業
	中国でも碎石の切り出し等の作業は 3 K の職種との認識が広がり、中国の正月（1 / 23）に里帰りした労働者が仕事についての情報交換を行い、より軽作業で高収入な職種へ転職するケースが多い。このため、就業者人口が 2 割減少し、納期遅延や価格上昇	石工品製造業

	<p>が予測されている。平成24年2月以降は、我々業界に変化が起きるかもしれない。</p>	
	<p>出荷量については、対前年比で骨材：77% 路盤材：83% 再生材：77% 全体では、対前年同月比：79%。11月よりは少し良くなったように思う。</p>	<p>砕石製造業</p>
一般機器	<p>半導体機械製造では、夏場以降の中国景気の減退、円高ドル安に加え、欧州の金融不安による円高ユーロ安等、景況感是一段と冷えてきている。ただ、一部韓国通信機器系企業に若干好転の兆しが伺われ、今後その動向を注視することとなる。</p>	<p>一般機械器具製造業 柳井市</p>
	<p>依然として、大手工場の爆発火災により数社影響が出ており、一刻も早く営業再開の目途をつけて欲しいところである。</p>	<p>一般機械器具製造業 周南市</p>
	<p>組合員の景況にはバラつきがある。自動車関連の仕事をしても、生産に直結している会社は、円高ユーロ安が原因で苦心している。逆に、新製品（新型車を売り出そうとしている開発部門）の金型作りは好況。鉄工業界そのものは、鉄の動きが新日鉄の合併問題がどうなるか、関心をもって様子を見ている。</p>	<p>一般機械器具製造業 防府市</p>
	<p>タイ向けの工作機械受注が増加傾向にあるため、12月は先月より売上高が増加する見込みである。</p>	<p>一般機械器具製造業 宇部市</p>
	<p>売上高が増加に転じているが、収益状況は若干の増に留まっている。</p>	
	<p>12月も引き合い件数は増えているが、なかなか受注までには至らず、受注の低迷傾向が続いている。また、受注するには、低価格・コストダウン・短納期が条件となっている。平成23年は中国案件の受注が増加し、平成24年も引き続き中国案件の引き合いは多くなるものと思われる。しかし、自動車関連や製造業の生産が海外シフトしているため、国内の仕事量は益々減少してくるものと思われる。</p>	<p>特殊産業用機械製造業</p>
輸送機器	<p>車両部門の操業度が下り坂に入ってきた。その中で新規発注分のコストダウン要請は強く、厳しい経営状況のトンネルに突入している。精密加工部門はかろうじて現状維持を保つが、先行きの展望は描けない状況である。</p>	<p>鉄道車両・同部品製造業</p>
卸売業	<p>各業種とも経営環境は厳しい。資金繰り・収益ともに苦しく、22年程度まで回復するも、現状維持で推移している。その中で運送業、建設（住宅）はやや回復基調である。</p>	<p>各種商品卸売業 周南市</p>

	各業種とも景気は穏やかに持ち直し基調で推移しているように思うが、海外経済が起因の円高の影響が懸念される。	各種商品卸売業 山口市
	各業種とも売上減となっている。	各種商品卸売業 下関市
小売業	業界としてはあまり変化が無いが、メーカーによる顧客の選別が進んでおり、サービス等の限定が見られる。また、光市では、大手半導体工場の閉鎖が24年5月と決定し、500人もの離職者があり、地域経済にかなりの影響が予想されるのが問題である。	化粧品小売業
	歳末商戦低調、元旦からの営業店もあり、年末の人出も低調であった。	各種商品小売業 周南市
	寒波の影響もあり、商店街への人出が減少しているが、売上については、ほぼ前年並を維持できている。	各種商品小売業 山口市
	12月9日に大型家電量販店がオープンし、全館的には来店客数は大きく増加しているが、既存店ベースでいけば、衣料の核店舗が大型家電量販店の誘致のため、店舗面積を約半減している事もあり、売上・客数共に下回っている。しかしながら、今後大型電機店の入店による集客の波及効果が期待でき改善するものと思われる。	各種商品小売業 長門市
商店街	年々、年末の盛り上がりが無くなってきている。商店街の業種不足もさることながら、更に23年は新規大型店の出店もあり、年末商戦は、既存大型店と新規大型店に客足が向いた様子である。	萩市
	年末の様子としては、例年よりも盛り上がりが少ない。祭事・行事の雰囲気は365日営業の世の中では廃れていく時代である。	山口市
サービス業	年末は師走と言うが、その通りで、12月に入り11月よりも忙しく売上は増加している。最近の業界紙を見ると理美容業は消滅するとの記事が多く、困惑している。今後も組合員一丸となって業種の存続に邁進する。	美容業
	組合員減少による組織力の低下。	理容業
	自動車関係税制の見直しにより、エコカー減税の延長・拡充が平成24年4月から図られる見通しとなり、また、エコカー購入の補助金も補正予算案に盛り込まれた。税制の抜本改正は行われなかったが現行のエコカー減税終了による新車販売の大幅な落ち込みは回避された。	自動車整備業

<p>少しではあるが、受注は回復している。修理単価は好転していない。</p>	
<p>1 1月と状況は変わらず。システム開発案件が非常に少ない状況で、だんだん深刻化している。自社の強み、他社との差別化を明確にして、お客様への提案をどんどんしていくことが、今後の事業継続の道である。</p>	<p>情報サービス業</p>
<p>依然として厳しい状況である。中小企業のIT等への設備投資マインドが冷めきっているようにすら感じる。</p>	
<p>需要が停滞。暇だと訴える事業所が多い。</p>	<p>屋外広告業</p>
<p>1 業界内の温度差がますます顕著になった。年が越せない個店が目立ってきた。組合にも支援の手立てが無く、個店故か行政支援とは無縁のためそのまま見捨てている。これらを買取り、再開に漕ぎ着けた企業もあったが、足手まといになっているケースもある。</p> <p>2 景気浮揚策は復興支援だけなのか、公共事業の凍結解除は、旧態以前に舞い戻っている。収入がないのに借金で事業執行を図るのは、景気浮揚を先送りするだけで抜本的な解決となっていない。いわゆる大きな政府にしていることが問題だ。無駄をはぶき、健全な消費を取り戻さない限り、景気浮揚はあり得ない。</p> <p>3 エネルギー問題、食料問題、防衛問題、貿易問題の根源であるアメリカ追従からの脱却無くして日本の方向性（対アメリカかグローバルか）は見極められないが、政府にその覚悟は出来ているのであろうか？ 飲食の世界もグローバル化してきている。</p> <p>4 対前年比に変化なし。（通年してみればやや悪いか？）</p>	<p>飲食業</p>
<p>前年の12月は、関西方面のお客様がいらしたが、今回は関西方面の送客が激減（約50%）。商品単価は、低単価商品が売れている。高額品は売れにくい状況である。宴会等も忘年会が減っている。年末年始のお客様も、財布の中は十分な費用を持っているが、使わない。生活不安。雇用も圧縮せざるを得ない。収益も悪くなっている。前年に比べ、窮屈な閉塞感を、より強く感じる。インバウンドは、円高・地震の影響で不振。特に料金面での厳しさが益々増大。子供たちを日本に送ることをやめる父兄が多い。</p>	<p>旅館業 下関市</p>

	<p>(原発問題等々安全面の不安) 徐々に回復に向かうが非常に緩やかである。</p>	
	<p>大型旅館・ホテルはツアーを受注し、客数を伸ばしているものの、小規模旅館、ホテルは個人客を主なターゲットとしており、反対に客数が減少している。組合全体としては、客数増加という結果になっている。</p>	旅館業 萩市
建設業	<p>県、市町の耐震補強工事が発注され、現状は多忙な状況下にあるが、3月以降の新年度に入るところには、仕事の予定が見当たらない。</p>	鉄骨工事業
	<p>中電への工事申請 1 月 2 9 1 件 (当支部分 2 2 4 件) 前年同月 4 6 0 件 (同 2 0 4 件)。太陽光発電への申請 2 9 件、オール電化申請 3 2 件 (前年は太陽光 1 9 件、オール電化 3 0 件)。LED 街路灯への切替・新設申請は 5 8 件。受注状況は順調。</p>	電気工事業
	<p>関係する他の専門工事業者も技能者が不足 (廃業) しており工事が遅れぎみで、元請が発注者に工期をのばしてもらおう要望をしている話も有る。元請業者が安価受注の為、社会保険加入等、法を守っている専門請負業者の採算が合わない状況が続いている。</p>	左官工事業
	<p>公共事業の発注はほぼ前年並みであるが、低入札による受注が続いており、収益状況は、更に悪化している。このような状況を受け、約半数弱の組合員では、2 3 年の従業員等に対するボーナスの支給はなされていない。</p>	土木工事業 柳井市
	<p>防衛省 / 岩国米軍基地予算へ期待!!!</p>	土木工事業 岩国市
	<p>2 3 年 1 2 月の受注高は、対前年同月比 8 2 %。今年度の累計は、対前年比 6 9 %。</p>	土木工事業 萩市
運輸業	<p>輸送関係は本月中旬頃から国内輸送が活発化し、下旬に至っては車両不足をきたす程であった。年末を控え大忙しであった。輸出面においては横ばいであった。前年同月比では収益差引 0 で、前年と変わらず。年末にかけて倒産が聞かれてきたが、油価格と運賃とのバランスがとれず経営は苦しい輸送業界である。油関係は 3 . 7 円の値上げ。</p>	一般貨物自動車運送業 下松市
	<p>運送業界から見ると、燃料の値上がりが一番収益に影響し気にかかる。米国のイラン制裁が実施されれば輸入の 1 0 % を頼っている日本は、値上がりに即結びつくように思う。米国商品市場価格も 1 バレル 1 0 0 \$ を超えるのではないかの情報も流れている。</p>	一般貨物自動車運送業 下関市

	<p>12月輸送稼働も昨年以上の数字を残せ、この数カ月は安定している。しかしながら、荷主企業により景況の良し悪しが二極化しており、その意味では不安定な状況だ。燃料価格は依然として上昇基調にある。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 防府市</p>
	<p>11月に引続き売上高が低迷している。取引先の顧客などの生産調整を受けている影響も感じられる。日本経済も持ち直してきたとはいいながら、まだら模様と思う。</p>	<p>一般貨物自動車運送業 宇部市</p>
	<p>タクシーチケットの取扱い金額は、前年同月比▲2.9%（11月1日～12月20日分）。11月1日～30日分は▲1.3%と減少、12月1日～20日分については▲4.9%とより大きな減少となった。比較的好調だった光地区で半導体関連企業の工場閉鎖が発表された事や、大手工場の爆発事故など、忘年会どころではないという機運が感じられる。燃料のLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動。12月分は11月分より下がったが輸送用C重油の高騰で、タクシー会社の購入単価は、11月と同額になった。昨年11月～今年2月に大幅上昇した事もあり、12月分の単価は前年同月比では▲1.3%になった。平成23年は東北大震災や原発事故や大手工場の爆発事故など、事件事故の多い年であり、年末の繁忙期、前年よりも需要が減少している事は間違いない。より早い復興復旧が本当に切望される。</p>	<p>一般旅客自動車運送業</p>